

## 市民まちづくり会議・むさしの 2017年度第一回定例会記録

日 時：2017年 7月14日（金）19：00～21：30

場 所：吉祥寺 商工会館3階 消費生活センター講義室

出席者（敬称略）：山田、内門、山本、中島、長谷川、青木、竹山、田中、南、塩澤、篠原、村井  
（計12名）

### ◆ プログラム【配布資料】 ※レジュメ順

1. 井の頭池の湧水源について（村井）

2. 古民家ウォッチングの日程について（山田）

【古民家調査のためのデータベースづくり】

3. 市民向けの「景観まちづくりの手引き」編集委員の応募について（篠原）

4. 境山野緑地の保全・再生の動向について（田中）

【境山野緑地関連の主な動向、パンフレット「行ってみよう！！独歩の森」、パンフレット（案）  
「再発見独歩の森】

5. 西通りの会の現状について（中島）

6. 武蔵野市の「空家対策委員」就任について（篠原）

7. リビングラボについて（長谷川）

【「武蔵野（仮称）リビングラボ」の展開活動について】

8. その他

吉祥寺東コミセンの活動報告（青木）

【九浦の家だより】

◇ 新年度初回の定例会のため、篠原よりあいさつがあり、プログラム順に報告と意見交換を行った。

### 1. 井の頭池の湧水源について

[話題提供]（村井）

1月に発行された「井の頭池かいぼり報告会資料集」に、井の頭池の湧水復活には、武蔵野市の地下水汲み上げ対策が必要であると書かれていることを紹介し、意見交換を行った。

- ・東町でマンション建設により浅井戸が枯れた話、江戸川の浄水場と下水処理場の位置関係の話、高尾山で圏央道の影響により地下水脈が絶たれた話など、地下水の話題は多岐にわたった。
- ・水道一元化の話もあり、武蔵野のおいしい水がどうなるか、今後も注視していくべき話題である。

### 2. 古民家ウォッチングの日程について

[提案]（山田）

今年度の新しい取り組みとして、古民家の再生を目指した取り組みを行う。国は、古民家再生のために新しい法体系の整備など動き出している。この会では、まず、市内の古民家のデー

データベースをつくり、整理した上でウォッチングを行いたい。配布資料の用紙に古民家の情報を書いて提出してほしい。すぐには書けない場合は、Fax (0422-55-7960) で送る。本日出席していない会員には、メーリングリストで呼びかける。

### 3. 市民向けの「景観まちづくりの手引き」編集委員の応募について(篠原)

市から「景観まちづくりの手引き」編集委員会に当会から1名の協力要請があった。〆切は7/17、期間は7~11月で無報酬。当会から複数参加することや、都合の悪い時に代理が出席することが可能か質問中である。本来は手引き作成の前に戦略を練るべきではないかとの意見もあったが、南さんを候補として市に返事することとなった。

### 4. 境山野緑地の保全・再生の動向について(田中)

[報告] (田中)

資料に沿って境山野緑地の概要、保全・再生の経過、活動状況等を報告。

- ・緑の基本計画にも掲げられている独歩の森の更新(再生)は、未だ実施されていない。現在林床は裸地だが、更新(再生)することにより、林床の植物も多様化する。既存林ではない二小の子どもたちが育てた「二小ゾーン」の雑木が大きくなり、萌芽更新のできる時期になっている。萌芽更新の実施は教育委員会も賛成している。地域の5団体が「二小ゾーン」について3月に「萌芽更新の要望書」を市に提出したが、回答は否定的である。
- ・今年が緑の基本計画の最終年で、このままでは、次の緑の計画に入らない可能性があり、多くの人に境山野緑地に来てもらい状況を知ってもらうための活動としてパンフレットを1500部作成する。(パンフレット案)パンフは第二弾、第三弾も考えている。

[意見等]

- ・パンフレットには生物の話だけでなく、歴史文化情報をクローズアップすると一般の人に読まれるのではないか。
- ・市議会の建設委員会が視察を予定している。
- ・今年、武蔵野の森を育てる会の活動が東京都公園協会賞優秀賞を受賞した。行政へのアピール材料となると思うが、市は玉川上水のユネスコ未来遺産登録に関しては消極的である。
- ・緑の基本計画の改訂委員会は現在公募中(14日〆切)で当会にも要請が来ている。田中、村井が応募したので、どちらかが選ばれるとよいが。

### 5. 西通りの会の現状について

[報告] (中島)

今まで、市の内部のみの検討であったが、地元関係者や議員との意見交換、5月の市長との懇談会を経て以下の進展があり、市の立場を明確にして、都との交渉へ臨むべき段階となった。

- ・6月議会で、この件に関して2名の議員(山本ひとみ議員、本間まさよ議員)が質問し、事業認可中の都市計画変更は可能であると都市整備部長が明言した。
- ・今後、8/2に都市整備部長と都との交渉について意見交換し、秋以降は観音院から境のまちづくりへ議論を進めていく。

[意見等]

- ・都市計画審議会と計画案との関係はどのようになるか。
- ・まず、変更について都の同意を得てから、計画案を検討することになると思われる。

## 6. 武蔵野市の「空家対策委員」就任について

[報告] (篠原)

- ・武蔵野市の住宅対策課から「空家等対策計画策定委員会」への出席要請があり、請けることとした。
- ・空家等対策計画は国の方針によるもので、各自治体で進められているが、武蔵野市は遅れている。8月に実態調査がまとまり計画が始まる。
- ・委員会は井出座長を含め9名で、市民委員は2名、行政書士もメンバーとなっている。
- ・第1回は7/25に開かれる。
- ・「空家等対策の推進に関する特別措置法」が施行されたので、市の職員は、空家への立入り検査が可能となる。今後、計画を策定し、具体的な施策を展開することとなる。防災上の空地や税制措置などについて議論されると思うが活用まで議論されるかは不明である。

## 7. リビングラボについて

[説明] (長谷川)

資料(「武蔵野(仮称)リビングラボ」の展開活動について)をもとに、リビングラボの取組みを説明し、意見交換を行った。

- ・コミセン等の料理教室では年配者が多く、皆でつくる楽しさがある。企業はモニターとして消費者の生の声を欲しがっている。年配の男性による「武蔵野ジイサズ食堂」のアイデアがあるが、まだ具体的な形は模索中である。

[意見等]

- ・コミュニティでの食の取組みは、「テンミリオンハウス」や、吉祥寺東町の食育財団による「コミュニティ食堂」などの例がある。
- ・リビングラボは、企業、住民(NPO)、自治体、大学のプラットホーム(場)をつくるということではないか。
- ・コミセンの利用は、団体利用が多いが、不特定多数の個人を対象とした取組みでは、市の事業である「コミセン親子ひろば」のように「〇〇広場」といったものになるのではないか。
- ・リビングラボはビジネスモデルとして続けていかなければならないのではないか。
- ・鎌倉市では、日本への紹介者である秋山先生が仕掛け人となっている事例がある。
- ・リビングラボの手法は拡がりがあり、映画を福祉的な切り口で上映するなどはどうか。
- ・どのようにやるか、行政はどのように入ってくるか。
- ・市の事業で、高齢者が30人集まれば、老人クラブとして市から活動の補助を受けられる。そうした団体はとても多い。
- ・もう少しリビングラボに関する情報が必要。まず、秋山先生のお話を聴く機会をつくってはどうか。

- ・プレイスの事業の「みんなの講座」では、講師料として 5 万円が使える。この事業を利用してはどうか。

## 8. その他

吉祥寺東コミセンの活動について（青木）

- ・会場の時間の都合で、九浦の家だよりを配布し、吉祥寺東コミセンの活動を簡単に報告した。
- ・6月のつどいで新クリーンセンターについて、新垣氏（クリーン武蔵野を推進する会副会長）の話を聴き、7/24に新クリーンセンターの見学を予定している。

以上/文責:村井